

# 東北学院大学

教養学部

人間科学科

キャリア教養学科

Q. 編入を考えたのは、いつからでしたか？また、その理由を教えてください。

四年制大学への受験に失敗した時からです。高校の先生に「聖母で2年間頑張って編入してみるのはどうだ」と言われたからです。母に聖母は編入の実績があるからと言われたので編入することを決意しました。

Q. 編入までのプロセスを具体的に教えてください。ガイダンスはいつ、どのような内容ですか。

1年の5月頃から編入対策のキャリアデザインの授業で、編入の基本的なことを教えていただきました。志望理由書の書き方や英語・小論文の勉強の仕方、短期大学での研究内容や編入先での研究したい内容が重要であるということなどを教えていただきました。また、編入に合格した先輩方の体験談を聞いたり質問したりする時間もあるので、とても有意義な学びだと思います。

Q. 実際の学習指導は、いつから、誰にどのような形で指導されましたか。

1年の前期から編入指導の先生方にご指導していただきました。小論文の添削や面接練習などをしていただきました。入学当初に「対策は早めに」「能動的に」と言われていたので、自分から進んで先生に声をかけ、対策に付き合っていました。受験ギリギリになってから先生に添削や面接練習をお願いするとお互いに大変なので早めに行動することが大事です。

Q. 編入対策で努力したことは何ですか。具体的にどのような勉強をいつからしましたか。

英文法の学び直しと大学研究です。私は英語の長文読解が苦手だったので、英語の品詞と文法を一から学び直しました。最初は簡単な文から品詞分解し、文構造を把握する練習を何度もしました。そして段々難しい長文に挑戦し、自信をなくしたら簡単な文の品詞分解に戻るといった勉強をしていました。大学研究は「編入合格ノート」を作り、大学の情報や教授の研究分野などをまとめていました。

Q.聖母の学びで力になったことはどんなことですか。

「プランニング入門」の授業です。手帳の使い方やライフプランの方法などについて考え、自分がどう生きたいか目標を達成するために、どのように時間を使えばよいか考え直すきっかけとなりました。目標を達成するためには、やるべきことを可視化することが大事だと実感しました。

Q.先生のアドバイスで役に立ったことはどんなことですか。

小論文の書き方と面接についてです。まず、小論文は多くの先生に添削していただきましたが、私は毎回とっていいほど「論に一貫性がない」「独自性がない」と言われていたので、論に一貫性を出し、独自性を出すにはどうすればいいのか日々考え努力しました。面接では先生方が客観的に私を評価して下さるので、自己理解につながり向上心が高まりました。

Q.①大学（短大）受験の時の気持ち・②短大入学時（学生生活）の気持ち・③編入試験前の気持ち・④合格した時の気持ちを教えてください。

①ただただ緊張と不安でいっぱいでした。

②本当に合格できるか不安でしたが、目の前にあるやるべきことと日々奮闘していました。

③絶対に合格してやるという気持ちでした。努力してきた自信はあったので、大丈夫と言い聞かせていました。

④多少不安にはなりましたが、やり切ったという達成感がありました。

Q.これから聖母短大に入学する、または聖母短大から編入を目指す後輩に伝えたいことは何ですか。

最初は不安ですが、先生や先輩などに不安を話してみるといいと思います。必ず何かを得られると思います。そして、何もかも自分から行動することが大事です。「その大学に入りたい」という強い思いで2年間様々なことに挑戦し、頑張ってください。応援しています！